

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-094131

(43)Date of publication of application : 30.05.1984

(51)Int.Cl.

G06F 3/02

(21)Application number : 57-204331

(71)Applicant : BROTHER IND LTD

(22)Date of filing : 19.11.1982

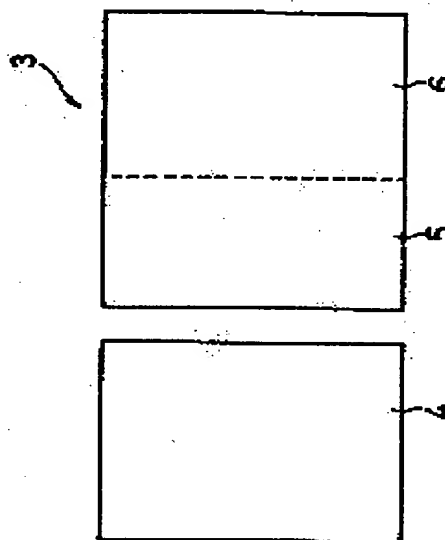
(72)Inventor : SUZUKI MAKOTO
ONISHI AKIHIKO

(54) WORD PROCESSOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To process an inhibited expression words or phrases without requiring care of the operator at the input time, by displaying the alternative expression corresponding to the inhibited expression as the output on a display device if the input is the inhibited expression.

CONSTITUTION: When one expression is inputted with Kana (Japanese syllabary) keys on a keyboard, a CPU reads out inhibited expressions stored in an inhibited word dictionary 5 and compares them with the inputted expression. If it is judged as the result of comparison that the inputted expression coincides with one stored inhibited expression, the CPU reads out a corresponding alternative expression from an alternative word dictionary 6 and records it in a temporary storage part of a memory and displays it on the display device. Next, when respective expressions are inputted and are not correspond to the inhibited expressions, the CPU retrieves the sentence, where Kanji (Chinese character) is mixed, corresponding to respective expressions from a normal dictionary 4 and stores it in the temporary storage part of the memory and displays it on the display device. A document generated in this manner is read out from the temporary storage part of the memory through the CPU and is printed by a printer.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Best Available Copy

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—94131

⑬ Int. Cl.³
G 06 F 3/02

識別記号

庁内整理番号
7010—5B

⑭ 公開 昭和59年(1984)5月30日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑮ ワードプロセッサ

⑯ 特 願 昭57—204331

⑰ 出 願 昭57(1982)11月19日

⑱ 発 明 者 鈴木誠

名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35
番地ブラザー工業株式会社内

⑲ 発 明 者 大西彰彦

名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35
番地ブラザー工業株式会社内

⑳ 出 願 人 ブラザー工業株式会社

名古屋市瑞穂区堀田通9丁目35
番地

㉑ 代 理 人 弁理士 佐藤強

明 細 書

1. 発明の名称 ワードプロセッサ

2. 特許請求の範囲

1. キーボードからの入力により中央処理装置を介して対応する語句をメモリから読み出し、表示装置へ表示信号を出力して文章を視覚表示するワードプロセッサにおいて、前記メモリは禁止語句の辞書とその禁止語句に意味の上にて対応した語句からなる置き換え語句の辞書を有するとともに、前記中央処理装置はキーボードからの入力が禁止語句であつた場合その禁止語句に換えて対応する置き換え語句をメモリから読み出して前記表示装置へ出力する手段を有していることを特徴とするワードプロセッサ。

3. 発明の詳細な説明

(技術分野)

本発明はキーボードからの入力操作に応じて中央処理装置を介して対応する語句をメモリから読み出して表示装置に表示しつつ文章を作成するワ

ードプロセッサに関する

(従来技術)

例えば従来日本語ワードプロセッサにおいては、言語処理プログラム中にかな漢字変換及び構文解析等の種々な機能が設けられていて、例えばキーボードから読みをかなキーで入力すると、自動的にかな漢字まじりの文書に変換されて表示装置の画面上に表示信号として視覚表示されるようにしている。そして、例えば放送関係或いは出版関係のように使用者の業務によつては使用することが禁じられた語句があるが、従来のはキーボードから禁じられた語句が入力されたとしても何ら特別な処理が行われることはなく、その他の通常の語句と全く同様の処理がなされるのみである。従つて、禁じられた語句が出力されないようにするためには、キーボードへの入力時に操作者が注意する以外に防止することができないという事情がある。

(目的)

本発明は上記した事情に鑑みてなされたもので

(1)

(2)

あり、その目的は、キーボードからの入力が増止語句である場合に、その増止語句に意味の上で対応する置き換え語句を表示装置に出力として表示し得るようにしたワードプロセッサを提供するにある。

(実施例)

以下本発明の一実施例について第1図乃至第4図を参照しながら説明する。1はキーボードで、これの前面には複数のひらがなキーからなる文書入力用キー及びかな漢字変換の動作選択、カーソル操作、"挿入"・"削除"・"訂正"等の通常の編集操作等を行う動作選択用キー(いずれも図示せず)が設けられている。2はキーボード1からの入力信号に応じて後述する各種の動作を行う中央処理装置、3は文書作成のための各種情報を記憶したメモリである。そして、このメモリ3内には第2図に示すようにキーボード1からの入力を通常のかな漢字まじり文書に変換するための通常辞書4、使用することを禁じられた増止語句を記憶した増止語辞書5、増止語句に意味の上にて

(3)

終りか否かが判別される。終りでない(NO)と判別されると再び判別行程何に移行され、入力された語句と増止語辞書5に記憶された次の増止語句とが比較される。今、仮りに入力された語句が第3図(a)の(1)に示す「わたしは」のときは増止語句に相当しないから判別行程何、何が繰返し行われ、増止語辞書5の最後の語句との比較が終了すると判別行程何は増止語句は終りと判別し通常のかな漢字変換行程何に移行する。この行程何において中央処理装置2は通常辞書4からかなを入力に対応するかな漢字まじり文即ち「私は」を検索し、これをメモリ3内の一時記憶部に記憶し、同時に表示装置7の画面上に第3図(b)の(1)に示すように「私は」を表示するようになり、この後、終了「エンド」にする。次に、第3図(a)の(2)に示す「じよちゆう」の語句が入力されると、上記と同様に判別行程何、何が繰返されると増止語辞書5から〔女中〕の増止語句が読み出されることがなるから判別行程何は等しいと判別し、「増止語句を置き換え語句に置換する」行程何に

(5)

対応した置き換え語句を記憶した置き換え語辞書6が設けられ、更に、作成された文書中のかな、漢字、記号等の形状を記憶したキャラクタ記憶部及び作成された文書を一時記憶する一時記憶部等も設けられている。7は作成された文書を中央処理装置2を介してメモリ3の一時記憶部から読み出して画面上に出力表示する表示装置、8は作成された文書を中央処理装置2を介してメモリ3の一時記憶部から読み出して印字用紙に印字するプリンタである。

次に上記構成の作用について第4図に示すフローチャート参照しながら説明する。キーボード1のかなキーからなる文書入力用キーが操作されて一つの語句が入力されると、中央処理装置2はスタート行程何を遂行し、判別行程何に移行する。この判別行程何においては、中央処理装置2は増止語辞書5に記憶された増止語句を読み出して入力された語句と比較し等しいか否かを判別する。そして、等しくないと判別されると、判別行程何に移行し、増止語辞書5に記憶された増止語句は

(4)

移行する。すると、この行程何において、中央処理装置2は〔女中〕と意味の上で対応する置き換え語句〔お手伝いさん〕を置き換え語辞書6から読み出して、これをメモリ3内の一時記憶部に記憶し、同時に表示装置7の画面上に第3図(b)の(2)に示すように「お手伝いさん」を表示するようになり、この後、終了「エンド」にする。以降、第3図(a)の(3)～(6)に示すように「に」、「つぎのよう」、「ようじを」、「いつけた」の各語句が入力される時には、これらはいずれも増止語句に相当しないから、第3図(a)の(1)の場合と同様に中央処理装置2が作用し、各語句と対応する漢字まじり文を通常辞書4から検索して夫々メモリ3内の一時記憶部に記憶し、同時に表示装置7の画面上に第3図(b)の(3)～(6)に示すように表示するようになる。そして、このようにして作成された文書はキーボード1上の印刷のための動作キーが操作されると中央処理装置2を介してメモリ3の一時記憶部から読み出されプリンタ8により印字用紙にプリント出力される。

(6)

上記した実施例では、キーボード1から禁止語句が入力された場合に、中央処理装置2は操作者が特別な操作をしなくても自動的に禁止語句に対応する置き換え語句で文書を作成し、ただちに表示装置7の画面上に出力するようにしているが、例えばキーボード1から入力された語句が禁止語句である時に、通常辞書4により通常のかな漢字変換したものを表示装置7の画面上に点滅状態で表示させるようにし、例えば操作者が実行キーを操作した時に置き換え語句に置き換えを行い、操作者が取消キーを操作した時には置き換え語句との置き換えを行わず、禁止語句をそのまま使用した文書を作成するようにし、以つて、必要に応じて禁止語句を使用した文書をも作成し得るような構成にしてもよい。

第5図は本発明の他の実施例を示すものであり、第1図の構成からプリンタ8を除去したものである。この装置は例えば放送局等で用いられ、キーボード1への文書の入力をディレクタ又は文書考察者が行う。そして、表示装置7の画面がアナウ

(7)

第4図は中央処理装置の動作を説明するフローチャート、第5図は本発明の他の実施例を示す第1図相当図である。

図面中、1はキーボード、2は中央処理装置、3はメモリ、4は通常辞書、5は禁止語辞書、6は置き換え語辞書、7は表示装置、8はプリンタである。

ンサーの前に表示され、アナウンサーは画面の表示をそのまま読んで放送をする。この場合、前述した実施例と同様にキーボード1への入力から禁止語句であつても表示装置7の画面へは置き換え語句が表示されるから、不用意に禁止語句が公共的な放送に用いられることが確実に防止されることとなる。

尚、キーボードの入力方式はかな以外にローマ字等、他の方式でもよい。

(効 果)

本発明は以上の説明から明らかなようにキーボードからの入力から禁止語句である場合に、その禁止語句に対応する置き換え語句を表示装置に出力として表示し得るようにしたワードプロセッサを提供できる。

4 図面の簡単な説明

第1図乃至第4図は本発明の一実施例を示すものであり、第1図は装置全体を示すブロック図、第2図はメモリの概略的構成図、第3図はキーボードへの入力と表示装置の出力との関係を示す図、

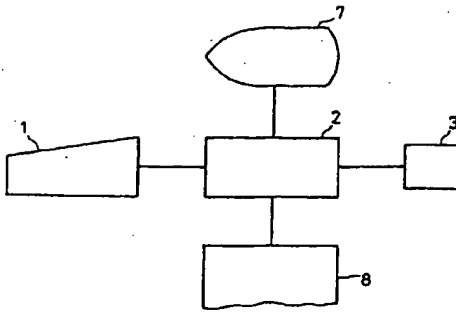
(8)

出 願 人 フラザー工業株式会社
代 理 人 弁護士 佐 藤

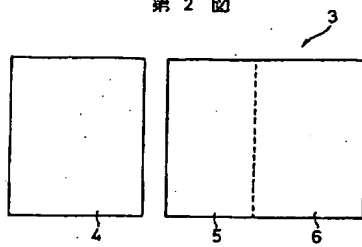


(9)

第 1 図



第 2 図



第 3 図

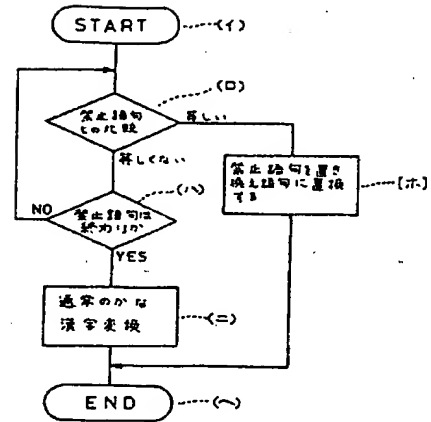
(a)

わたしは じょちゅう に つぎの ような ようじを いいつけた
 (1) (2) (3) (4) (5) (6)

(b)

私は お手伝いさん に 次の ような 用事を いいつけた
 (1) (2) (3) (4) (5) (6)

第 4 図



第 5 図

